

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(12)

－ 2020度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV (12)

－ Class Reports and the results of a questionnaire survey －

松 田 勇 一

Yuichi MATSUDA

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2020年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した新入生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育として「コミュニケーション講座」が開講され、松田（2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。また、平成28年度より、初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019、2020）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。本稿では、「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

2020年度の基礎ゼミはシティライフ学部1年生の必修科目であり、その役割は大学生を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうことである。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して7つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は11～12名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

2020年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。

- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。

2.2 授業の方法と内容

2020年度基礎ゼミは、受講者88名（日本人学生83名・留学生5名）を7クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は7クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、7人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや問題点などを話し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、課の間に合同講義や発表などを組み入れた。2020年度は新型コロナウイルスの影響により授業開始が遅れ、また開始後も4月、5月はZOOMによる遠隔授業となった。5月下旬より対面授業に戻ったが、感染予防対策としてマスクの着用やフィジカルディスタンスの確保が必須となったため、グループでの話し合いや共同作業などは省略する形となった。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	自宅待機につき休講・メールによる課題配信
	2	ホームルームによる健康状態の確認（ZOOMによる遠隔授業）
	3	テキスト第1章「さあ、はじめよう」（ZOOMによる遠隔授業）
	4	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」（ZOOMによる遠隔授業）
	5	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	合同講義①ノートテイキング（松田教員）
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	9	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」①（7クラス合同）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」②（7クラス合同）
	13	合同講義②レポートの書き方（松田教員）
	14	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	15	合同講義③消費者カレッジ（学生委員会主催）

秋 学 期	16	クラス再編成・自己紹介・夏休みの課題発表
	17	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	18	合同講義④キャリアガイダンス（就職委員会主催）
	19	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」①（7クラス合同）
	21	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」②（7クラス合同）
	22	テキスト第11章「研究テーマを考える」
	23	テキスト第12章「研究を進める」
		大学祭ポスター展示（「夏休みの課題：私の〇〇場所」）
	24	テキスト第13章「研究報告をまとめる」
	25	テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」
	26	テキスト第15章「基礎ゼミを振り返って」
	27	最終発表「これからの研究テーマ」①（7クラス合同・1人2分）
	28	最終発表「これからの研究テーマ」①（7クラス合同・1人2分）
	29	予備日
30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講し評価する）	

2019年度と同様、課題として週間日誌と作文を課し、2週間に1度指定の用紙に記入させて提出させた。週間日誌は、2019年度は「講義で印象に残ったこと・疑問に思ったこと・新たに発見したこと（字数制限なし）」、「週間報告（2週間で印象に残ったこと）200字」としていたが、2020年度は、「新たに学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと（100字）」、「週間報告（2週間で印象に残ったこと）200字」、「作文（200字）」とした。全ての項目で字数を設定したのは、字数による評価基準を明確にするためである。週間日誌の評価は、上記の3項目について、「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。また作文は、短い字数の作文を課すことにより書くことに対して慣れてもらうこと、また書くことによる自己分析を促すための措置である。なお、週間日誌や各種ワークシートは、2穴バインダーにポートフォリオとして学生に管理させた。

2.3 成績評価

週間日誌40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（-欠席回数×3点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。また、週間日誌はクラス担当教員が確認、評価を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。また、教師による一言コメントは廃止した。これは、前年度までに教

師のコメントに対する学生からの極端な負の反応が見られたためである。複数の学生に対して同じようなコメントを書いたとしても、学生によって全く違った反応があり、コメントの記述に困難さを感じるようになったことが理由である。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、2020年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生79名、留学生4名、秋学期は日本人学生57名、留学生4名であった。調査した学生数の違いは、出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択技法、5段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

学期	春				秋			
	0～1日	2～3日	4～6日	毎日	0～1日	2～3日	4～6日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	75(94.9)	4(5.0)	0(0.0)	1(1.8)	55(96.5)	1(1.8)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	4(100)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100)	0(0.0)
全体	0(0.00)	0(0.0)	79(95.2)	4(4.8)	0(0.00)	1(1.6)	59(96.7)	1(1.6)

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

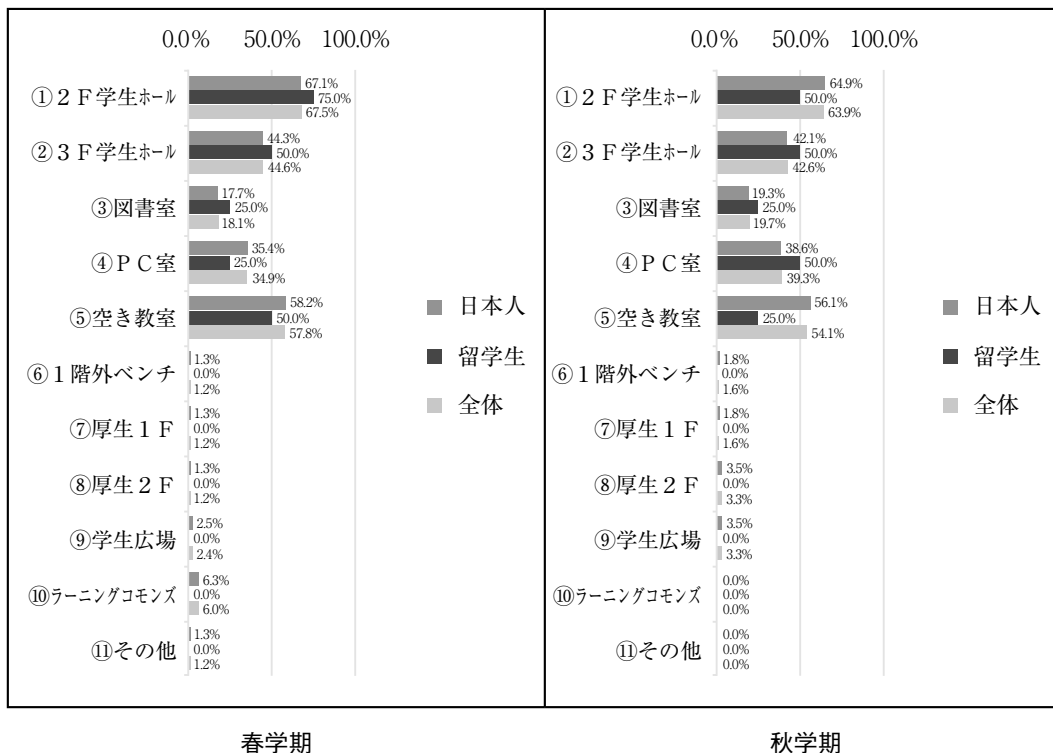


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

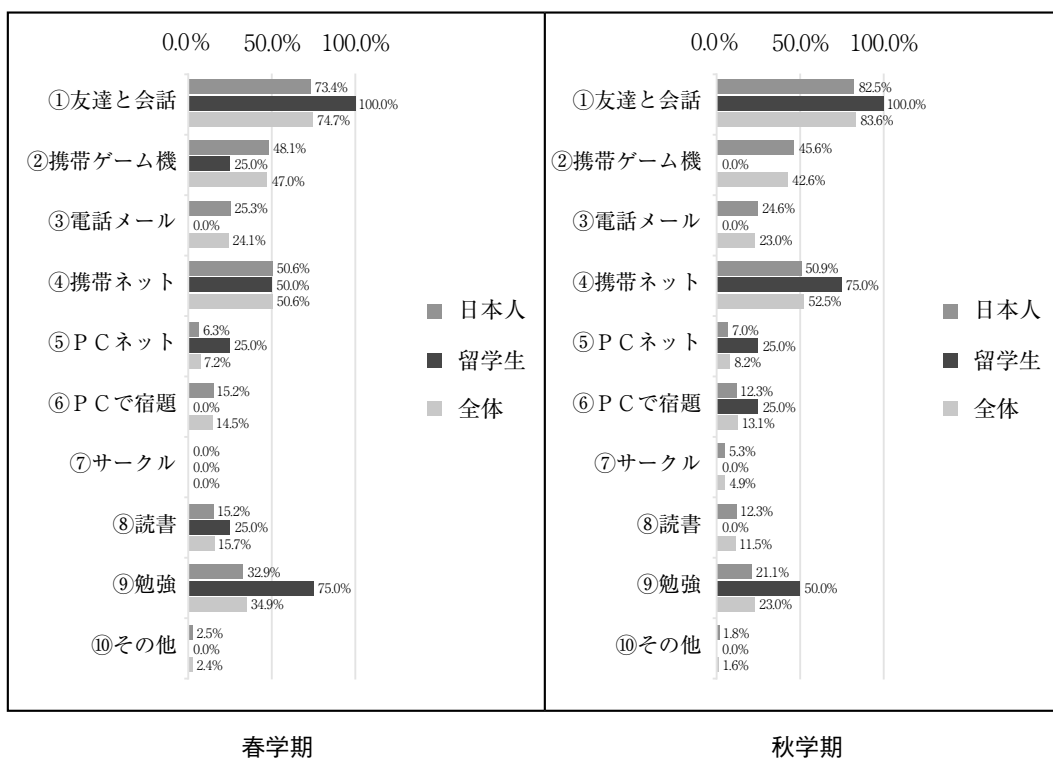


図 2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

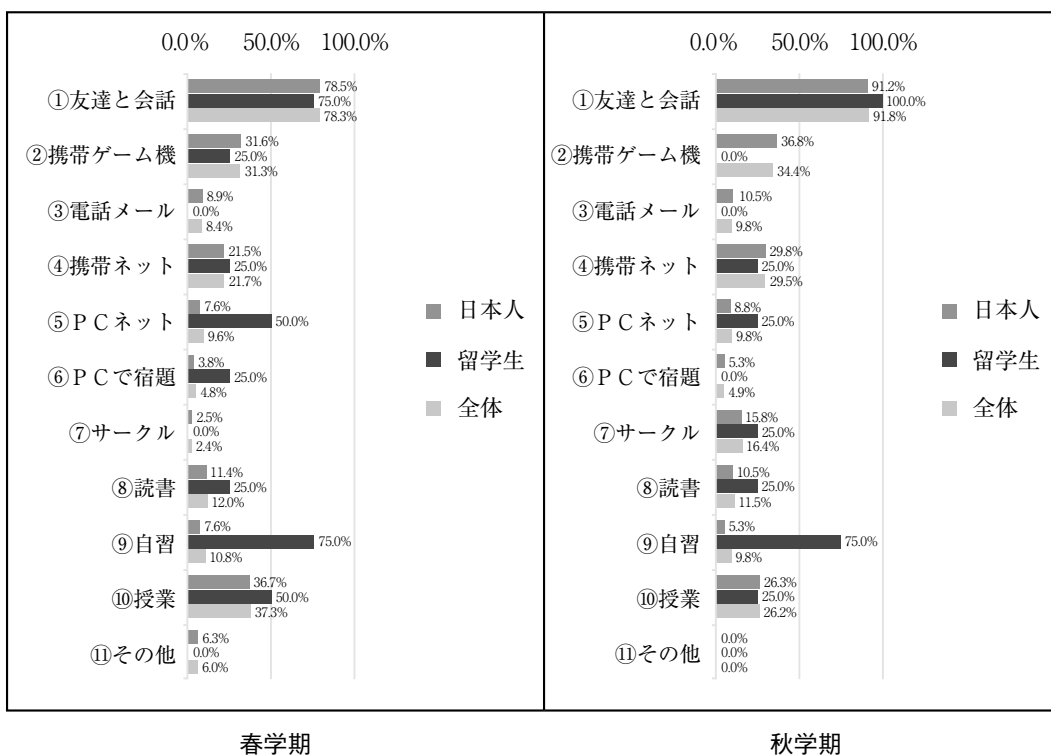


図3

5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

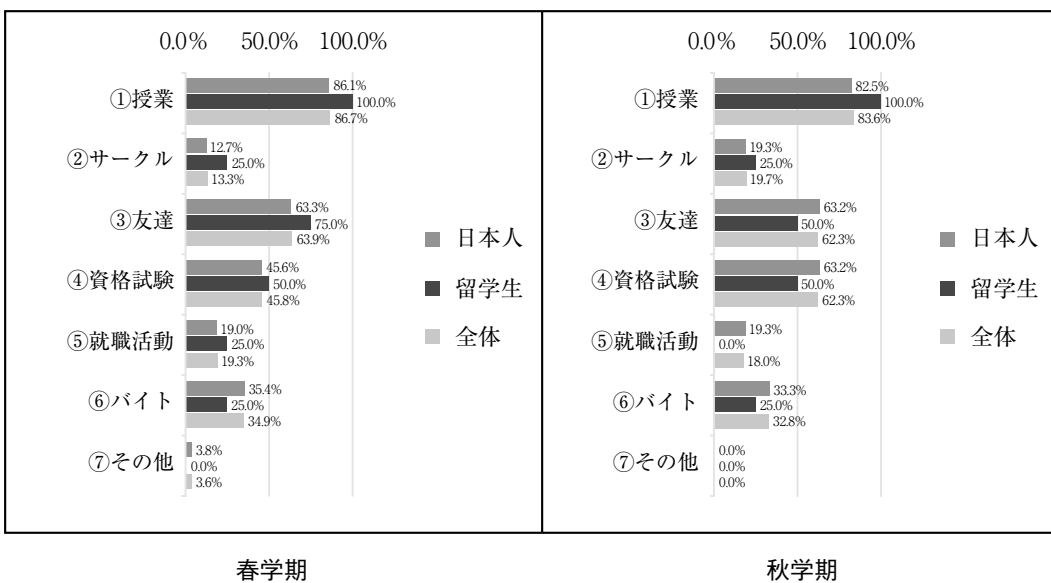


図4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。 当てはまるもの全てに○をつけてください。

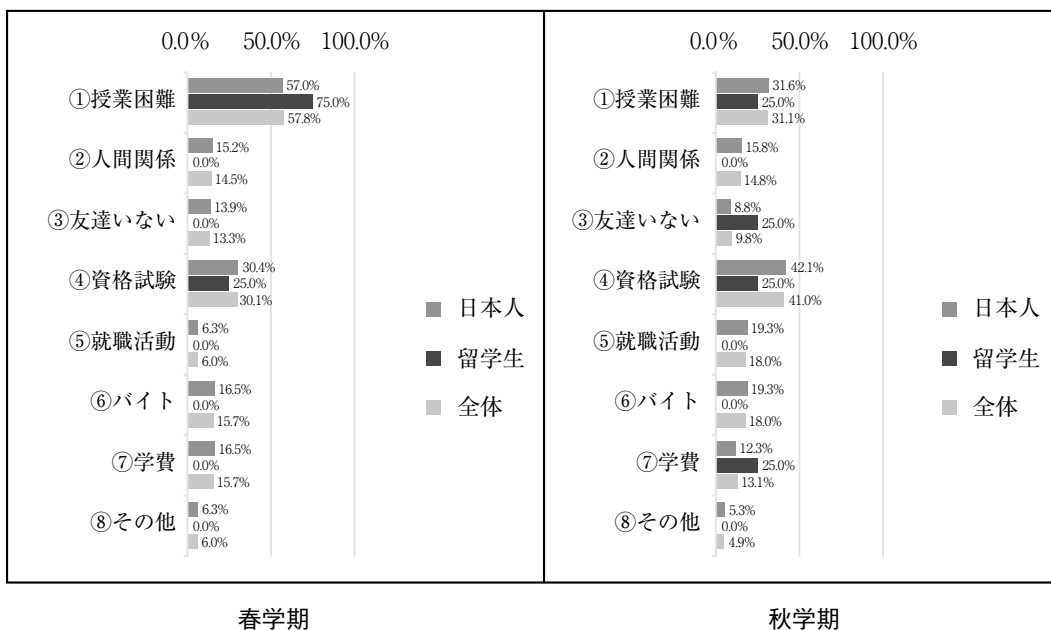


図5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？

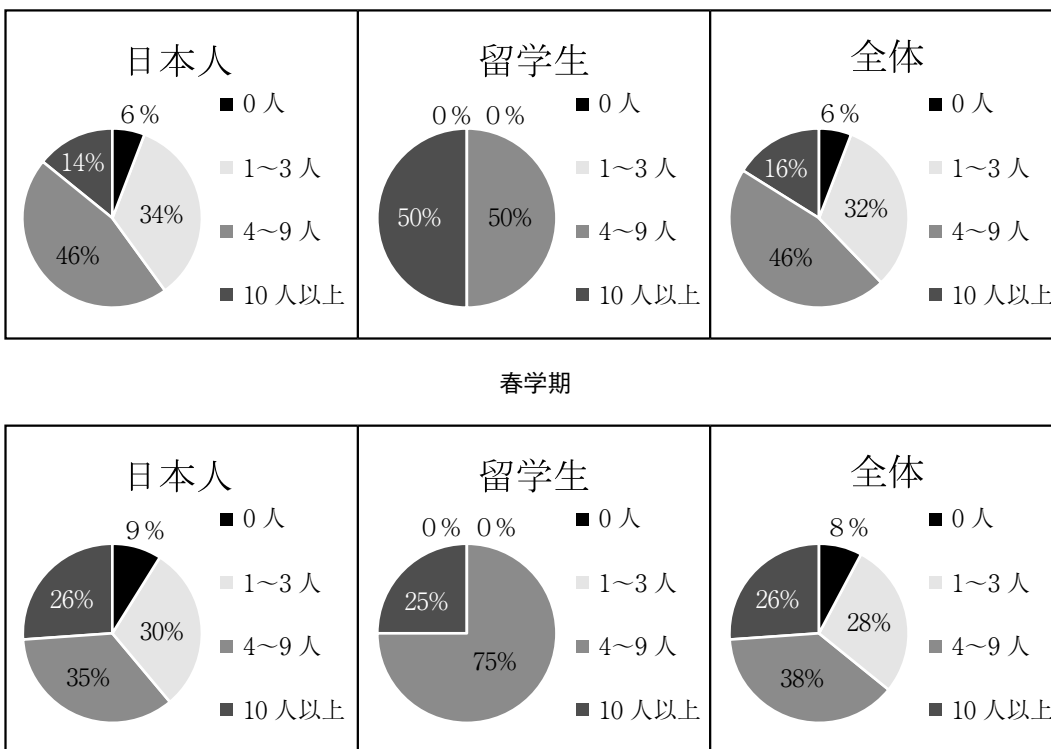
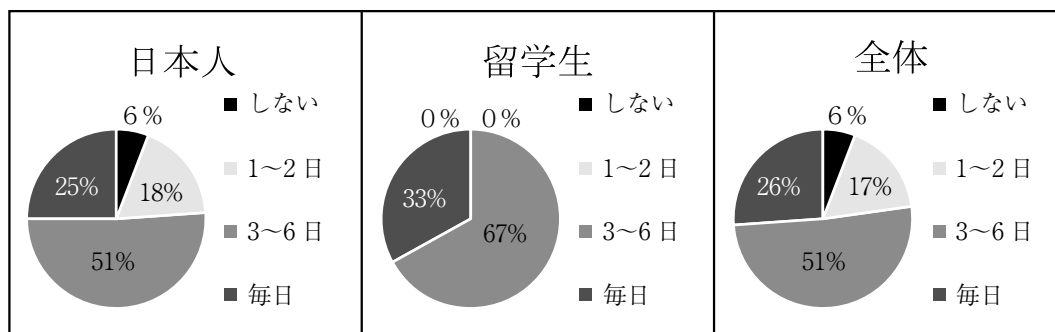
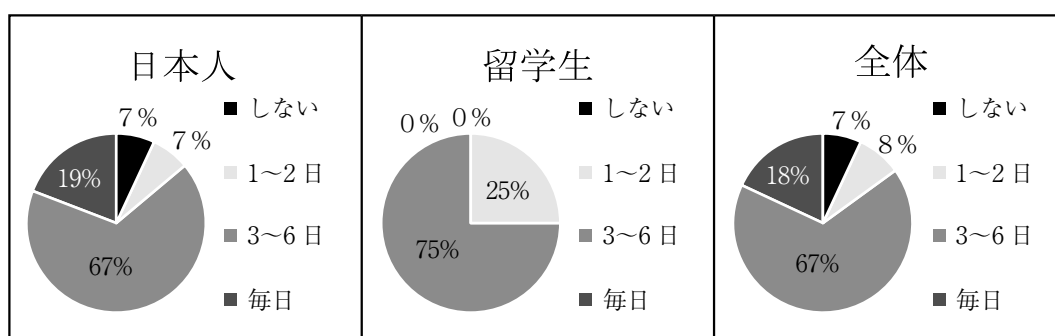


図6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？



春学期

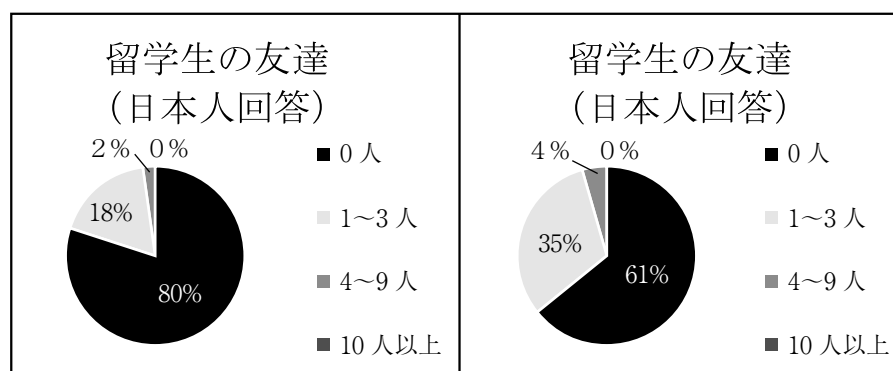


秋学期

図7

< 9) 10) は日本人学生への質問です >

9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？



春学期

秋学期

図8

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？

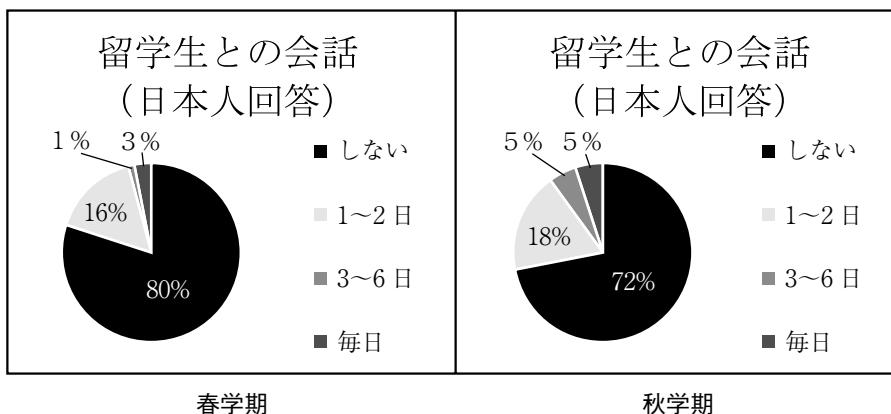


図9

< 11) 12) は留学生への質問です >

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？

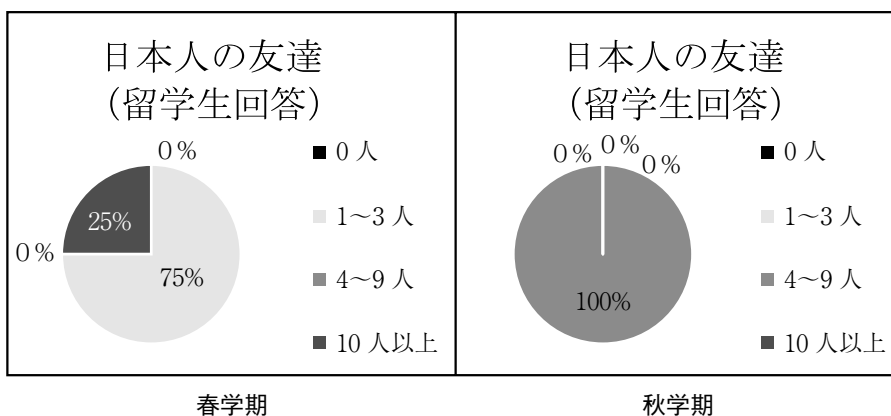


図10

12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

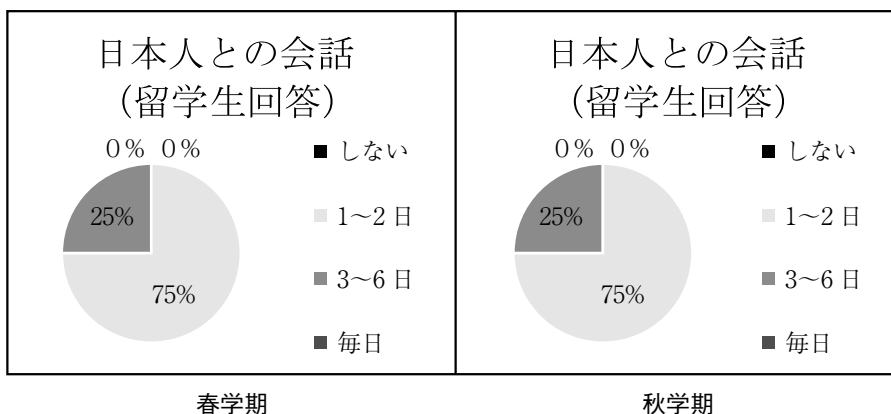


図11

質問1)は、通学の回数であるが、全体では週に4～6回が春学期95.2%、秋学期96.7%となった。コロナ禍における通学には、心理的なストレスもあったと考えられるが、学生たちは熱心に通学したことが分かる。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では例年同様に「2F学生ホール」が最も多く、春学期全体67.5%、秋学期全体63.9%であった。また、昨年度同様の傾向としては、「2F学生ホール」から「3F学生ホール」、「PC教室」、「空き教室」への居場所の移動が見られた。これは、新型コロナウイルス感染症対策のために学生ホールの椅子の数を減少させたことが大きな要因であろう。このような措置は学生ホールだけではなく各教室でも徹底し、フィジカルディスタンスを確保するように努めた。また、学生ホールのテーブルにはパーティションを、教壇にはビニールシート等を設置し、飛沫防止を徹底した。

質問3)は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。例年同様、全体では春学期秋学期共に「友達との会話」が最も多かった。次いで「携帯でインターネット」、「携帯ゲーム機」が多かったのも例年同様である。「サークル活動」が全体では、春学期0%、秋学期4.9%となり、昨年度の春学期24.6%、秋学期16.7%より大幅に少なくなった。これは、コロナ禍におけるサークル活動や新入生勧誘活動の自粛によるものと思われる。また、コロナ禍において特徴的だったのは、「勉強」の割合が高くなったことである。2019年度は春学期全体17.4%、秋学期全体16.7%だったが、2020年度は春学期全体34.9%、秋学期全体23.0%と高くなった。コロナ禍によりサークル活動や友達と自由に話したりすることができなくなったため、一人で勉強をする時間が増えたと考えられる。

質問4)は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、例年同様、「友達と会って話すこと」が最も多かった。2020年度の特徴としては、質問3)とも関連するが、「授業」の割合が増えたことである。2019年度は春学期全体20.3%、秋学期全体15.2%であったが、2020年度は春学期全体37.3%、秋学期全体26.2%と高くなった。質問3)では勉強する割合が増加したことを指摘したが、勉強時間が増えた結果、授業に対する意識も改善されたと考えられる。

質問5)は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達との付き合い」が高かった。「資格試験の勉強」は、春学期全体45.8%、秋学期62.3%と時間の経過とともに高まった。「サークル活動」は昨年度全体で春学期23.2%、秋学期27.3%だったが、2020年度は全体で春学期13.3%、秋学期19.7%となり、昨年度よりも低くなった。これもコロナ禍の影響と考えられる。

質問6)は、生活の中で困っていることを聞いたものであるが、春学期は例年同様「授業が難しい」が最も多くなった。春学期全体57.8%から秋学期全体31.1%と減少し、大学の授業に順応しているのも例年同様の傾向である。2020年度の特徴的な点は、「資格試験」が春学期全体30.1%から秋学期全体41.1%と高くなっている点である。

質問7)、8)は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。

殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができていますが、2019年度は10人以上の友達ができただけの者も全体で春学期54%、秋学期61%であったが、2020年度は春学期全体16%、秋学期26%となり、ここでもコロナ禍の影響が表れた結果となった。

質問9)~12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の中で留学生の友達がない割合は、2019年度は春学期30%、秋学期27%であったが、2020年度は春学期80%、秋学期61%と非常に高くなった。これはコロナ禍の影響もあるが、新入学の留学生が5名と少なかったことも関係していると考えられる。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

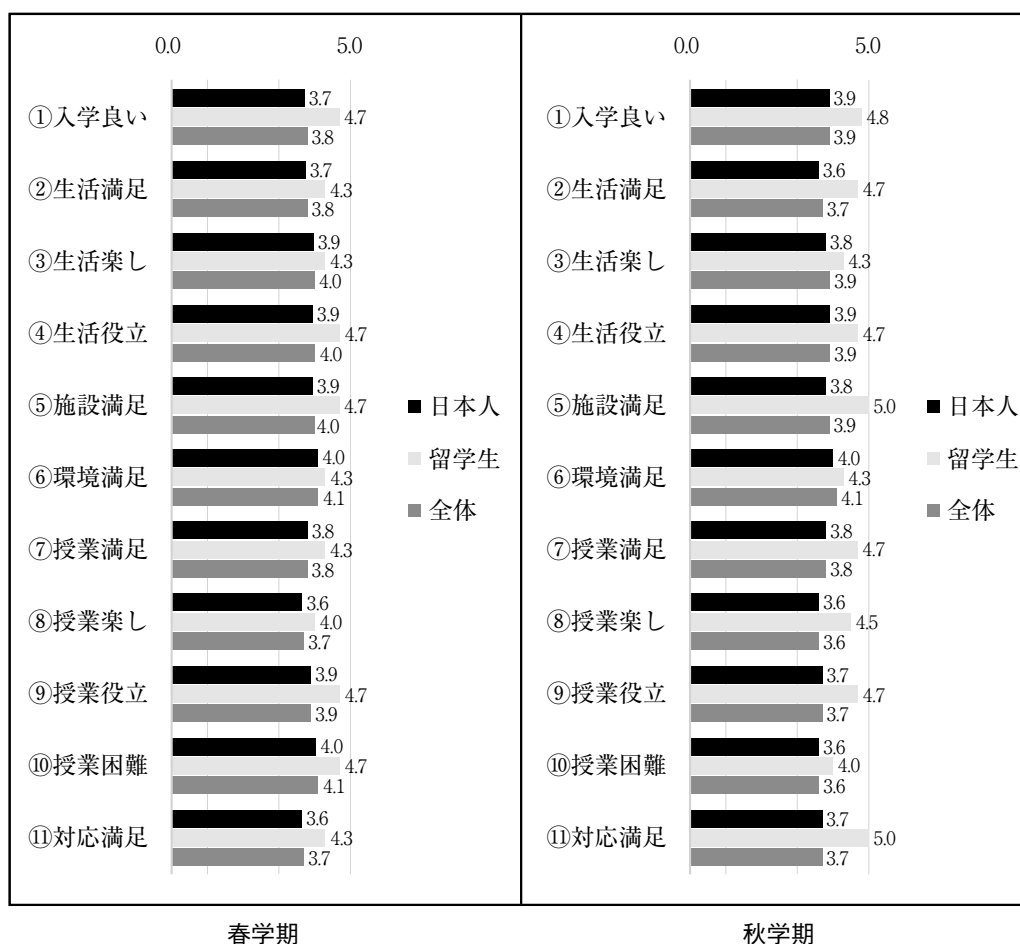


図12

まず、質問1の「入学して良かった」については、全体で春学期3.8、秋学期3.9で昨年度（春学期3.8、秋学期3.9）と同じ水準であった。2020年度全体で4.0を超えたのは、春学期秋学期の「環境満足」、春学期「授業困難」であった。コロナ禍において学習環境に対して満足度が得られたのは、感染症対策のための措置が好意的に受け入れられた結果と考えられる。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

<日本人学生：春学期>

- ・図書館の本が軒並みなく感じます。ただ、外国語の本があるのは素晴らしい。
- ・目安箱を置いてほしい。コロナ対策をきちんとしてほしい（ZOOMを取り入れるなど）。
- ・自動販売機の種類を増やしてほしいです。セブンティーンアイスを導入すれば、毎日食べますよ。
- ・教室のライトが明るすぎてまぶしい。ITパスポート、FP等の資格講座はいつからはじまるのか。
- ・夜まで勉強などするスペースがあったら良いと思います。
- ・体育館が無いので好きなスポーツサークルが無かった。
- ・基礎ゼミ・簿記の教員の対応が不満。
- ・Wi-Fiが弱い。

<日本人学生：秋学期>

- ・家族に医療従事者がいる。対面授業ではなくリモートにしてほしい。
- ・自動販売機を増やしてほしい。セブンティーンアイスを設置してほしい。オンラインじゃないのはありがたい。
- ・座れない席はあらかじめ決めておいて席は自由にしてほしい。
- ・コロナでサークルがない。
- ・テーブルに対するイスの数が少ないので、イスの数を増やしてほしい。
- ・コロナ禍で大学に来て大丈夫なのか？
- ・学生ホールのイスを増やしてください。コロナ気にするなら、そもそも授業もリモートでやるべきだし、イスないと座るところが無くて困ります。
- ・2階のホールがいつも寒いので暖房をつけてほしい。
- ・キャンパスが駅の近くなので来るのがこわい。最近近くの小中学校でもコロナが出ているのであまり外出したくない。
- ・車の駐車場がほしい。
- ・コロナの第3波が来ているので、学校に来るための電車に乗るのが怖い。

以上のような意見が見られたが、コロナ禍ならではの意見が多く見られた。本学では5月下旬以降対面授業を行ったが、それについては肯定的な意見も否定的な意見もあった。また、通学のために公共交通機関を使うことに対してストレスを感じている学生がいるということも分った。アイスクリームの自販機については、昨年も同じような意見が寄せられていたので、設置に向けて検討しても良いかもしれない。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

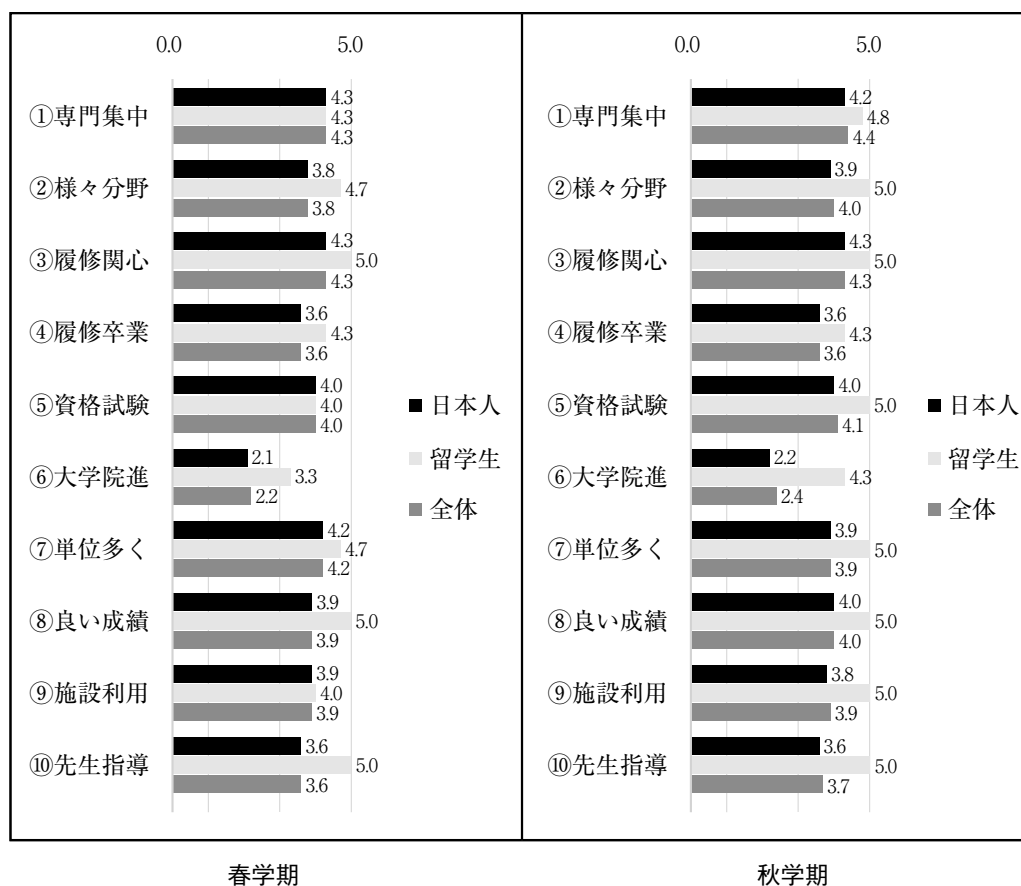


図13

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問1、3、5、7、秋学期は質問1、2、3、5、8が4.0以上となった。これは昨年と同様の傾向であり、春学期から秋学期にかけて、学業についての意識が高まっていると考えられる。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について（春学期と秋学期共通項目）10の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥週間日誌を書くのは役に立った ⑦週間日誌を書くのは面倒くさかった ⑧作文を書くのは役に立った ⑨作文を書くのは面倒くさかった ⑩週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった）を設置した。

2020年度は新たな質問項目として作文のテーマについての質問を設けた。春学期の作文テーマは「自己紹介」、「高校時代の思い出」、「私の親友」、「私の名前の由来」、「私の自慢」の5つ、秋学期は「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が感動した映画」、「もし生まれ変わったら」の6つである。

また、基礎ゼミのテキストと合同講義について春学期6項目（①テキストは良かった ②合同講義「ノートテイキング」は良かった ③「キャンパスツアー」は良かった ④発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」は良かった ⑤合同講義「レポートの書き方」は良かった ⑥「消費者カレッジ」は良かった）、秋学期5項目（①テキストは良かった ②発表「私の〇〇の場所」は良かった ③大学祭展示は良かった ④レジュメを作成して発表したのは良かった ⑤最終発表「これから研究したいこと」は良かった）を設置した。

以上の設問回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

【基礎ゼミ全般について】

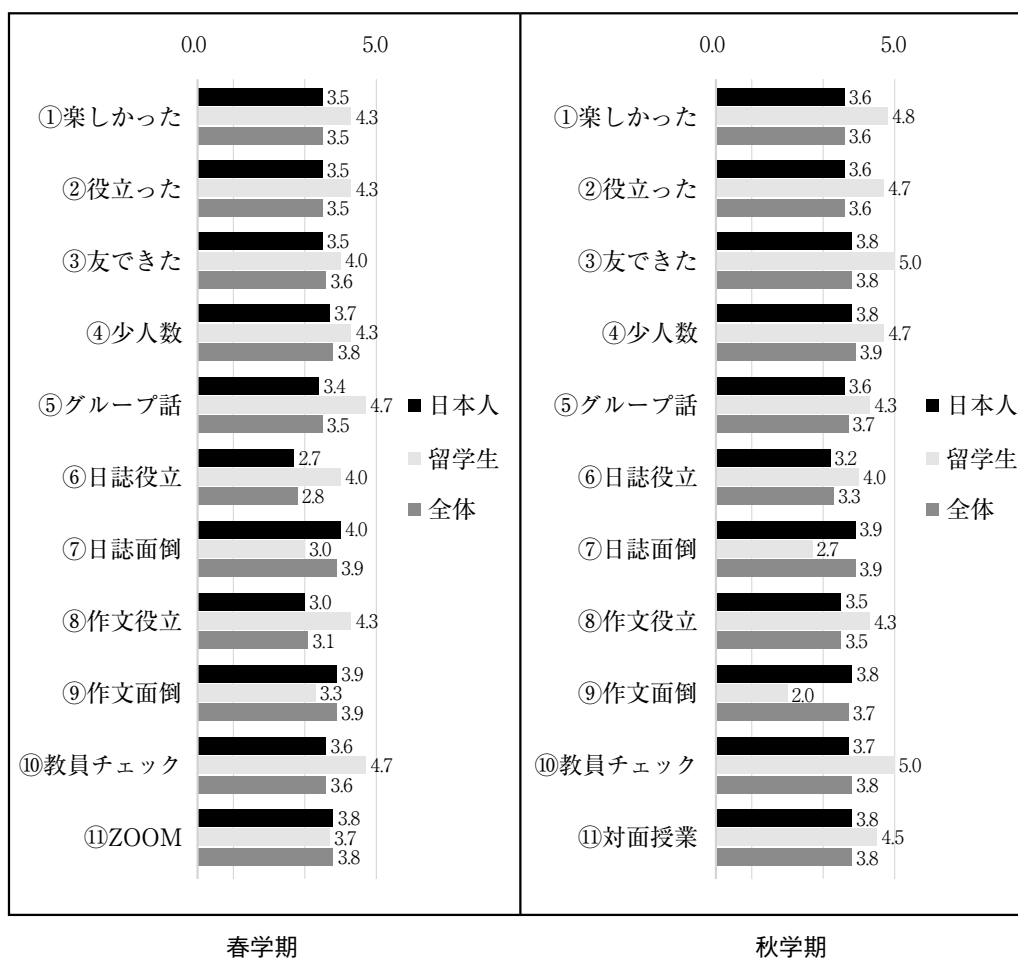


図14

まず、全体で4.0を超えたものは、春学期、秋学期ともに無かった。これはコロナ禍において、グループでの活動を自粛したことが主な理由であると思われる。本来基礎ゼミは、教科書を読んだ後に当該の内容についてグループで話し合うことになっている。しかし、2020年度は、グループでの話し合いができず、教科書を読むだけの形になってしまった。来年度もコロナ禍は続くと思われるが、フィジカルディスタンスを取る等の感染症対策を確実にしながらグループでの話し合いを再開したいと考えている。

【作文テーマについて】

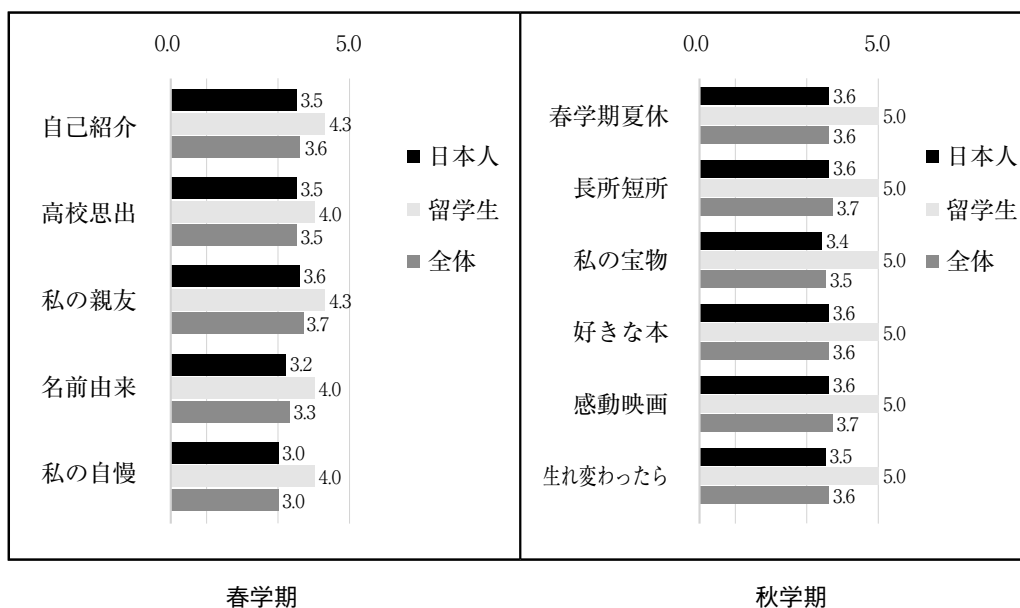


図15

作文のテーマについては、2020年度に初めて設置した項目であるが、テーマによる評価の高低はあまり見られなかった。作文は書くことに対する苦手意識を無くすことと、自己分析が主な目的である。学生がより興味を持って取り組めるようなテーマ設定に努めていきたい。

【テキストと合同講義について】

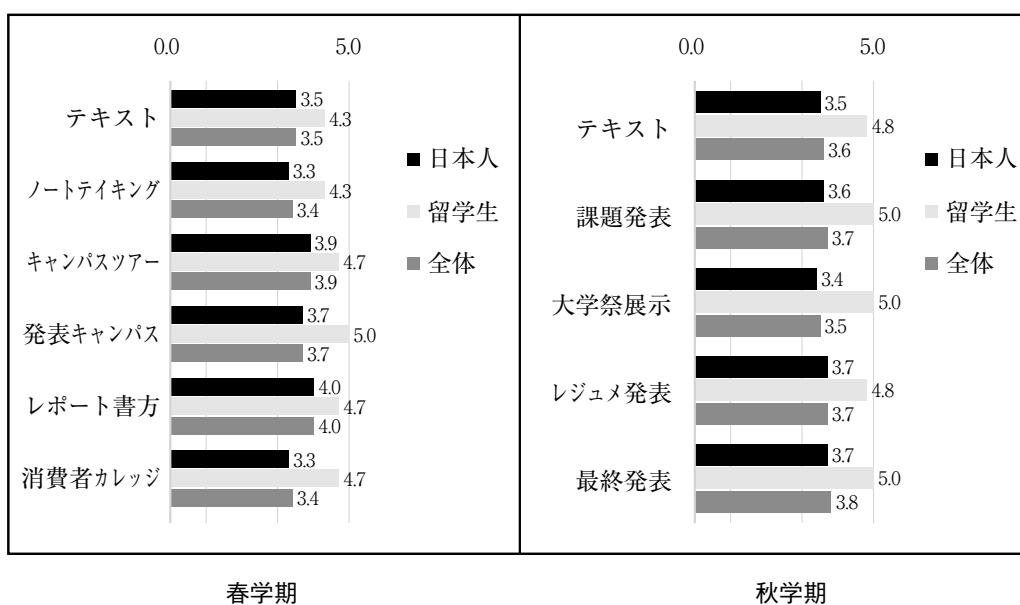


図16

「テキスト」については、全体の評価が春学期3.5、秋学期3.6であった。テキストは後半難しくなるが、春学期と同程度であった。発表については、全3回を単位習得のためには必須項目としているが、評価は高くなかった。最終発表は全体で3.8となった。2019年度は1人1分という短い時間で行ったが、2020年度は1人2分の時間を確保し、発表自体も2回に分けて行った。しかし、1年間のまとめとしては物足りないものがあった。来年度はスライドを作成させ、発表時間を3分程度にし、よりアカデミックな発表会としたいと考えている。

次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

<春学期：日本人学生>

- ・ゼミのメンバー変わるのキツイです。
- ・教科書は変えた方がいいと思います。
- ・新型コロナウイルスの影響で、ほぼ何もできなかったのがつまらなかったです。

<秋学期：日本人学生>

- ・テキストをただ読むだけで意味があるとは思わなかった。

以上のように教科書に対する不満が見られた。2020年度は教科書のグループ活動ができなかったことから、内容に対する不満に繋がってしまった。来年度は本来の基礎ゼミの形ができるように工夫していきたいと考えている。

4 まとめと今後の課題

2020度の基礎ゼミでは、新型コロナウイルスの影響により春学期の授業の一部がZOOMによるものとなり、また対面授業開始後も感染症対策としてグループ活動を自粛せざるを得なかった。このような制限下で新入生の心情は如何ばかりものであったろうか。通学で外出する際にもストレスを感じ、大学でも自由に友達と話せないという状況は、非常に辛いものであったろうと推察される。こうした状況の中、大学では感染症対策を徹底し、講義も創意工夫をして行われた。遠隔での基礎ゼミも初めてのことであったが、学生も自宅から参加してくれた。来年度以降も新型コロナウイルスの影響は継続すると思われるが、教職員が知恵を出し合い、より良い学習環境を学生に提供していきたい。その一環として、本学では来年度新入生全員にChromeBookを配布し、学内のICTを推進することとなった。基礎ゼミでは、GoogleのClassroomを通じて、週間日誌のデジタル化などを検討している。また、2020年度は、コロナ禍により計画していたことができないこともあった。その一つが、週間日誌の一部をクラス内で発表させることである。「新たに学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと」を何人かに発表させ、学生同士が刺激し合える環境を整えたい。

コロナ禍により、大学における教育の在り方が根本から考え直されているが、本学においても時代の潮流に乗りながら、学生たちに質の高い教育を提供していきたいと考えている。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2010）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第11号
- 松田勇一（2011）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第12号
- 松田勇一（2012）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3)－平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第13号
- 松田勇一（2013）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4)－平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第14号
- 松田勇一（2014）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5)－平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第15号
- 松田勇一（2015）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6)－平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第16号
- 松田勇一（2016）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(7)－平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第17号
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8)－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9)－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号
- 松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10)－平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号
- 松田勇一（2020）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(11)－2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第21号

謝辞：2020年度の基礎ゼミでは、本学の田部井伸芳教授、森寛史教授、和田佐英子教授、大石和博准教授、今喜史専任講師、渡邊瑛季専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。